

北野文書 ⑥「おさしづ」の写し翻刻

おやさと研究所員
安井 幹夫 Mikio Yasui

(18) 明治廿四年六月六日 越後行御願
さあへ尋る事情とふく処」(36オ)
の事情一ツ こふありくらだあきらかならん 一時の処にとりてあざやかおさめてこふ どふこふわすれかたへ 一寸たよりといふ 一時のはなし まあ一時の処でゝはんぜん こふとゆふり八十分うけとるなれど 一人や二人てはいかんで しばらくの処十分なる処 つけよふとたがいへ心むす」(36ウ)
んでじゆんへ 又二名三名さためるならゆるそ しばらくの処しいかりさだめて尋るなら しいかりさとしよ

(19) 全六月八日 越後行前差図二付 鴻田様いて貰ひ舛たら宜敷く御座り舛か御願
さあへ尋る事情へ ぜんへ」(37オ)
事情 さきへ一ツ 人々かわれども一人の事情 一人の事情が一ツ しんじつあれバなんどきなりと 一と一ツといふ心あれバ はこびはこべバ世界をさまる そんなとふくへ処へ としもとしやしと ゆへばどふもゆわん さきへの処にてわ事情なければひまがある そこで二名三名事情ハなんでも」(37ウ)
はこばにやならん 一寸りがあれバふかき事情ある をさめた事情ハ一名たより さきへ一寸はなしをきいてをさめる そこで二名三名でなけねばいかん いかんやなひけれど ひまがある ふるき事情いて一どのりかある 内々事情地場一ツといふ みなへかわりてでるといふ」(38オ)
なんどきの事情でもゆるそ ゆるすハ人々いりかわりてへてでにやならん 一日の日にどんな事がてけるやらしれん 一寸ひまならいてこふか ひまの時心しづめてたんのふの心もたねばいかん きよハひまや ひまならゆふくりとせにやならん そふせにや たちいく処がある」(38ウ)

まい こんな日ハ一寸ひまとゆふ ゆふくりやすまにやならん 今一時の處三人しばらくとゆふ ひまところやなひ それへ日々につめて一日二日いゆくりと きのやしなひなればいかん 内からいたらこふゆふ事に はこんできたたらこふ ちからいれてこふといふ 此道ハ大さき心もつて」(39オ)
ハ大さき道になる ちいさき事にをもてハならん ちいさき心もつてハ あちらからにほい ちちらからにほい 一ツのじやまになる ころりとまちこふてあるでへ
前の差図をきいて諸方から道の為 広めにしている処へ 本部よりいけば しままにな」(39ウ)
るりであるふ」)

そのりやへ すうきりわかりてある ちからといふものはハちいくりすれハなんぼふでもじいくりするものや そのりハ大さき 大さきハミなうつりくる あちらこちらにほい にをいハ ちいさきくべつがわかる をもいハころりとまちこふてある その心で」(40オ)
あつこふてくれるよふ
此差図をきいて 何かだんじの上 願ふと咄して舛処へ しゃんへ をして人々さだめて願へバリをゆるそ ゆるさにやてらりやせんで

(20) 明治廿四年六月十一日 越後行事情御願
さあへぜん尋る事情尋る」(40ウ)
事情さしづ一ツ たに一ツはじめよふといふ事情きゝわけ ど

ふゆふ事できゝわかるなら 地場といふ 地場のそれへ人と いふ事情はじめる 一ツりがをさまる かたまる たに一ツ世界はこぶ さきへの事情 又々の事情さきへの事情よりあつまりたる事情 一寸に八わかりがたなひ 地場」(41オ)
一ツのりをもつて世界はじめかけるハ たれもたのミかけん みな心一ツのりがあつまりて事情といふ ながいとゆへばながい さきといへはさき はたらきによつてあつまる たゝ一ツの事情 一ツへりをきゝわけて一ヶ国といふ 又はじめといふ をさまるであるふ なれとたにぢきへとゆふ 世上世界にとればあちら」(41ウ)

からよる こちらからよる いかなるも世界へりがありてあつめる 一寸はじめかけるといふ 世界一ツのりとゆふ たにはこぶ処うすいとゆふ あちらからはいり たれがどふする だんへはこべども しゆこふなき事情でハなんにもならん だんへをくれてある なれと此道ハだんへ日々にましていてそ」(42オ)
れより事情なん時なりととめわせん たあてどふとハゆわんで さあへしゆりなら十分まわらにやならん 種のしゆりがそれへきかすがしゆりしゆりならそれへいかにやならんで

(21) 明治廿四年六月十三日 本席会長郡山分教会へ出向ル事二付御願」(42ウ)

さあへ尋る事情 二事情尋る 二人共一度の事情にいかんで その日その日なら一日のゆふよふゆるそ さあへだんじをして本席一人出向の願
さあへ一夜だけゆるそ

(注) 本席会長とは、本席と初代真柱の意。

(22) 明治廿四年六月十七日 裏川の石垣井二地界の石垣かへ取掛りの願」(43オ)

さあへ一寸かゝる あちらへこちらもとふり あちらをひろめ こちらをひろめ 又つきなをし 年々道すじ ちいさき事ならをさまる 大へんなる事ゆへ たてるかといへばとつてしまう 心をきのふ 萬事ねんのいつたる事ハいらん 一年たてばかわる 三年たてばかわる 十年たてバすうきりかわる なんでもかでも年」(43ウ)
々ゆく処なくして事情りがをさまる かゝる処ねんのした事ハいらん これねんのいつたる事もしてハ一年 道が三年 三年のものなら五年にもなる

(23) 明治廿四年六月三十日 神道本局会議の結果を部内分教会長及ヒ詰員丈け集會して定めた物で有か 各講長も集めた」(44オ)
物で有かを伺う

さあへ尋る事情へ よくもつて尋ねた事情 尋るから又一ツそれへ世界の事情はこんで 世上はかりかたなひ事情 ぜんへしばらくとゆふてある しばらくの間 四方一ツの事情 一ツの事情にさとせん よふくあらへ心だけのり 一ツの一寸一時の処こふしてをかねバならん」(44ウ)
どふなるこふなる ほのかの事情さとしてをく あざやか事情 まあへあらへ これへものさとして一ツの心といふ 一時ハなをもいへそれミたか さしたらひををふて 一時心一ツのほふ ほふへ心のりをうつさんよふ